



SENSHOJI
YUKARI NEWSLETTER
1994-2023

ゆかり通信

VOL. 306

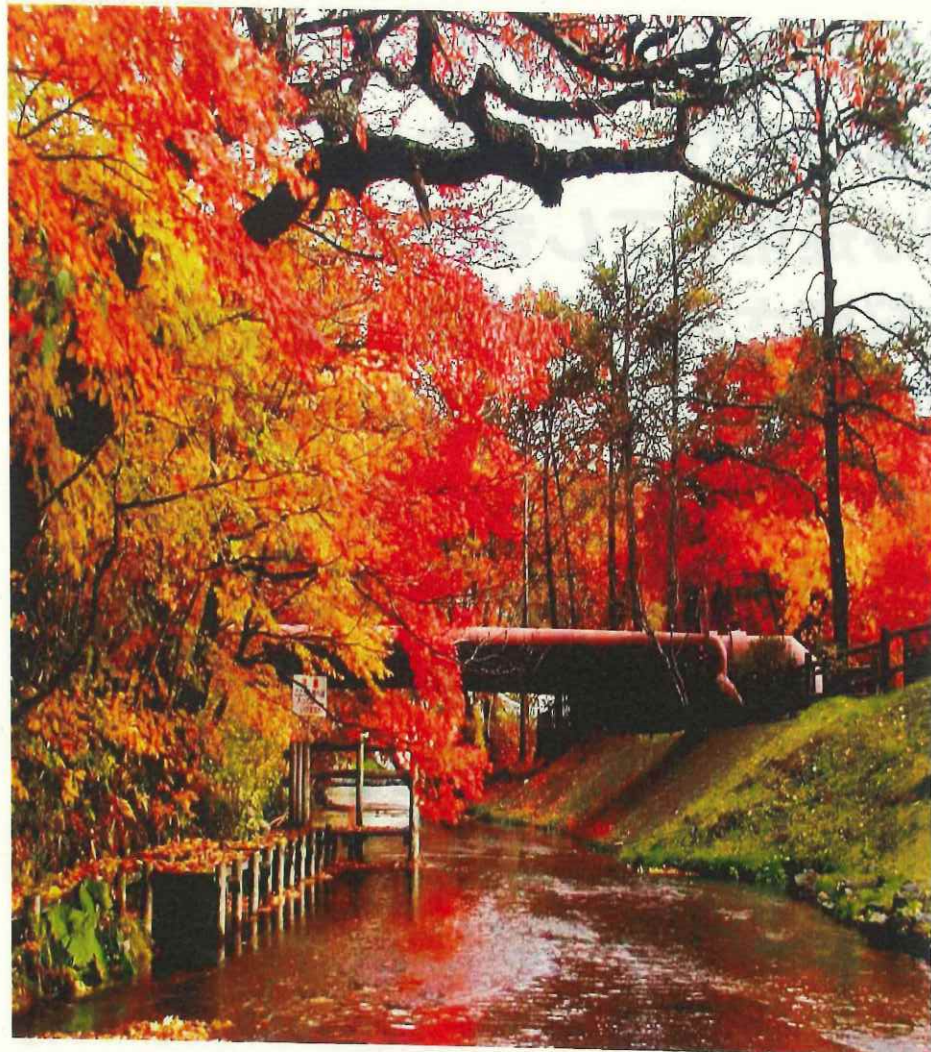
令和 5 年 7 月

北海道千歳市清水町1-14 鶴寶山 千正寺

TEL:0123-23-2442 FAX:0123-24-9883

ホームページ <http://sensho-ji.net/> フェイスブック @Senshoji

2023年千正寺カレンダー 7月の言葉



市民の水を守る浄水場

誰々の「せい」を
「おかげ」に変えてみる

「人のせいにする」と聞き、真っ先に思い出したのが、子供の頃読んだ、宮沢賢治の「ツエねずみ」という童話です。他人の親切を悪く受け取って、「償(まど)うてください。償うてください。」と相手を責める「ツエ」という名のねずみの話です。万事がそんな調子ですから結局、ツエねずみは、皆に嫌われます。最後には、ネズミ捕りにかかって死んでしまいます。「何でも人のせいにする人は、皆に嫌われますよ」という教訓ですね。

一方「おかげさま」と聞いて思い出すのは、司馬遼太郎さんの「街道をゆく?」の近江商人の話です。『させて頂くという語法は、浄土真宗の教義上から出たもので、他宗には、思想としても、言いまわしとしても無い。真宗においては、すべて阿弥陀如来-他力-によって生かしていただいている。三度の食事、阿弥陀如来のお陰でおいしくいただき、家族もろとも息災に過ごさせていただき、ときにはお寺で本山からの説教師の説教を聞かせていただき、途中、用があって帰らせていただき、夜九時に寝かせていただく。この言葉の使い方は、阿弥陀如来の絶対他力を想定してしか成立しない。それによって「お陰」が成立し、「お陰」という観念があればこそ、「地下鉄で虎ノ門までゆかせて頂きました」などと言う。相手の銭で乗ったわけではない。自分の足と銭で地下鉄に乗ったのに、「頂きました」などというのは、他力への信仰が存在するためである。(中略)かつての近江商人は、京・大阪や江戸へ出て商いをする場合も、得意先の玄関先でつい門徒語法がでた。「かしこまりました。それでは明日の三時に届けさせて頂きます」というふうだ。』と、その語法が広がっていったように思えると書かれています。

つまり、すべての行いは阿弥陀如来の他力のはたらきによるという、お陰様の心を大切に、お念仏の教えから生まれた言葉であったということです。日本の宗派で一番多いのは、浄土真宗です。阿弥陀様のお慈悲の中で生活させて頂くご門徒さんは、自分の行いを「手柄」とはしません。全ては、阿弥陀さまのご縁によってさせて頂く…。私たちの御先祖さまは、相手を責めず、仕事も、仏さまのお給仕も、全て阿弥陀様の「おかげさま」の中で、させて頂く、奥ゆかしい日本の心をもっていました。

今、子や孫たちは、この厳しい現代社会を必死に生きています。「他人を責めず、お陰様で生きて行く知恵」を持てばきっと、あの近江商人の様に、皆に愛されることでしょう。(人)南無阿弥陀仏… (文:桜庭尚吾法務員)